

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果（若桜町）

第9期介護保険事業計画に記載の内容			R6年度（年度末実績）				
区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策	
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(1) 健康づくりと介護予防の推進 ○若桜町の高齢者数は平成29年の1,508人をピークに減少し、後期高齢者数も横ばいながら緩やかに減少している。高齢化率は、令和2年に49.0%、令和5年には50.9%と、全国・県より高い水準で推移しており、今後もこの傾向が続くと予測される。 ○国民健康保険の特定健康診査の受診率は県内第2位で、健康に対する意識が高いと思われる。 ○介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果では、高齢者全体で「認知機能の低下」と「うつリスク」が高く、新型コロナウイルス流行期の外出自粛や、交流機会の減少が、5類移行後の現在も影響していることが考えられる。 ↓ ○認知症予防、うつリスクの軽減に向け、継続的に、交流や、健康づくり、介護予防につながる活動の機会を充実させる必要がある。</p>	<p>(目標Ⅰ) 高齢者の生きがいや自立支援に向けた施策の推進 ①高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ③地域支援事業の充実 ④包括支援センターや生活支援・介護予防サービスの情報公表</p>	<p>(1)介護予防・日常生活支援総合事業の指標 ①介護予防・生活支援サービス事業 ・訪問型サービスC 【いきいき訪問リハ】(R6) (R7) (R8) (実人数) 7 7 7 (延回数) 160 160 160 ・通所型サービスC 【体力づくり教室】(R6) (R7) (R8) (実人数) 16 16 16 (延人数) 300 300 300 【リハビリ教室すずらん】(R6) (R7) (R8) (実人数) 10 10 10 (延人数) 180 180 180 ・生活支援サービス(配食等)(R6) (R7) (R8) (実人数) 110 110 110 (延人数) 3,600 3,600 3,600 ②一般介護予防事業 【健康教育】(R6) (R7) (R8) (回数) 12 12 12 (延人数) 180 180 180 【あんしんホットクラブ】(R6) (R7) (R8) (回数) 51 51 51 (延人数) 880 880 880 【すまいるサロン】(R6) (R7) (R8) (回数) 26 26 26 (延人数) 440 440 440</p>	<p>【1】介護予防・生活支援サービス事業 ・訪問型サービスC いきいき訪問リハ (実人数) 7人 (延人数) 124人 ・通所型サービスC 体力づくり教室 (実人数) 16人 (延人数) 267人 リハビリ教室すずらん (実人数) 10人 (延人数) 174人 ・配食サービス (実人数) 72人 (延食数) 2,939食 【2】一般介護予防事業 あんしんホットクラブ (回数) 48回 (延人数) 831人 すまいるサロン (回数) 26回 (延人数) 445人 健康教育 (回数) 5回 (延人数) 57人 【3】高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 筋力アップ教室 (回数) 24回 (延人数) 193人 口腔機能アップ教室 (回数) 2回 (延人数) 21人 お喜楽食教室 (回数) 3回 (延人数) 31人</p>	◎	<p>【1】介護予防・生活支援サービス事業 ・訪問型サービスC 「いきいき訪問リハ」は、介護保険の訪問リハビリが浸透したことで、短期集中事業のニーズが低下し、新規利用者が減少した。短期集中事業のニーズ自体が低下していることもあり、今後、事業の再構築や見直しを検討する。 ・通所型サービスC 「体力づくり教室」、「リハビリ教室すずらん」とともに、利用者の高齢化に伴い、体力向上の効果が見られにくいという、終了後のセルフケアが困難になり、短期集中での効果が薄れている。また、利用者からも、通年利用ニーズが高まっていることも踏まえ、令和6年度で事業を終了し、7年度から通年の一般介護予防事業へ移行する。 ・配食サービス 調理ボランティアの減少や、物価高騰に伴う値上げ等の課題はあるが、食を通じた支援介入のきっかけづくりや、見守り等の効果もあり、変わらず高いニーズがある事業である。他の事業（要支援者台帳整備関係）とも連携して、利用者の緊急連絡先の把握にも努めており、引き続き実施していく。 【2】一般介護予防事業 閉じこもり予防を目的とした「あんしんホットクラブ」は、利用者の満足度が高く、欠席率も低い。結果的に、機能維持や介護予防にも繋がっており、今後も継続していくが、新たな利用者の受け入れが困難な状況が続いており、令和7年度は、新たに同様の事業を創設し、受け皿の確保に努める。「すまいるサロン」については、一般介護予防事業の中でも、特に認知症予防に重点を置いたプログラムを提供しているが、参加者が増加しているため、令和7年度は、新たに、通所型の一般介護予防事業を創設し、そちらに利用者を振り分けることで、よりきめ細やかな関わりが行えるよう調整したい。「健康教育」については、地域の老人クラブ等の高齢化により、ニーズが低下しており、回数が減少しているため、町の介護予防事業や健康教室等を活用する等、健康教育の機会の確保に努めたい。 【3】高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 これまで、介護予防に興味を示されていなかった方にも浸透し、若年の方や、男性の方の参加にも繋がったが、保健師等の専門職の人員に限られる中、直営での実施回数に限界があることが課題だった。令和7年度は、一部をフィットネスクラブに委託する等、事業内容の強化と効率化に努めたい。</p>	
	①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(2) 地域で支えあうための体制整備 ○令和4年10月時点で、高齢者の約6割が、息子や娘を含む高齢者のみの世帯となっており、息子や娘との2世帯同居は2割以下となっている。 ○高齢者の5割以上は、地域活動への参加への意向がある一方、世話役としての参加になると、3割程度に低下している。 ○要介護者の家族構成は「単身世帯」と「夫婦のみの世帯」が合わせて約4割となっている。 ↓ ○高齢化に伴い、地域の世話役や、家庭内の介護者としての担い手が減少し、地域で支えあうことが困難になっている。</p>	<p>(目標Ⅱ) 安心安全な暮らしを守るための支援体制 ①高齢者福祉事業 ②家族介護者に対する支援 ③安心安全な地域づくり ④感染症対策における体制整備</p>	<p>①緊急通報システム (R6) (R7) (R8) (登録者数) 20 20 20 ②お元気ですかコール (R6) (R7) (R8) (登録者数) 8 8 8 ③介護家族支援事業 (R6) (R7) (R8) (回数) 12 12 12 (延参加者数) 40 40 40</p>	<p>【1】緊急通報システム (登録者数) 10人 【2】お元気ですかコール (登録者数) 5人 【3】家族介護支援事業 虹のカフェ (回数) 11回 (延人数) 51人 【4】事業者ネットわかさ (回数) 6回</p>	○	<p>【1】緊急通報システム 独居高齢者の緊急時の通報や見守りシステムとしてのニーズがあり、特に心疾患等の既往のある方には、安心して在宅生活を送るための重要なツールになっている。利用者数は横ばいだが、他の事業やサービスとも包括的に組み合わせることで効果を発揮するものであり、今後も継続する。 【2】お元気ですかコール 定期的な声掛けや見守りのツールとして機能しているが、広報不足もあり、利用者が減少している。独居高齢者に向け、個別に声掛け等を行い、利用者増を目指していく。 【3】家族介護支援事業 これまで、座談会を中心として実施してきたが、参加者の意見を聞き、調理実習等を取り入れ、楽しみながら、活動を通じたコミュニケーションを目指して実施した。また、活動の様子をSNSで積極的に発信した。令和7年度も、これらの取り組みを続けつつ、他の自治体との交流会等も新たに検討する。 【4】事業者ネットわかさ 町内の介護事業者の連携を目的に、隔月で実施しており、事業所同士の顔の見える連携体制の構築に繋がっているほか、要支援者の見守り名簿を独自に作成し、事業所の垣根を超えて、町全体での見守り体制の構築に努めている。今後は、更なる連携体制の強化に向け、交流会の実施や、各事業所への新たな委託事業の提案などを行っていく。</p>
	①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>(3) 地域包括ケアシステムの強化に向けた取り組みの推進 ○最期を迎える時に希望する居場所は「自宅」が多い。 ○施設入所に関して要介護3以上の方は、7割以上が「検討していない」と回答している。 ○認知症に関する相談窓口を「知っている」と回答した方は約4割。 ↓ ○認知症に関する相談窓口の周知と正しい理解の普及啓発や、可能な限り住み慣れた地域で生活が続けられるよう「地域包括ケアシステム」の強化が必要。</p>	<p>(目標Ⅲ) 地域包括ケアシステムの深化・推進 ①若桜町らしい地域包括ケアシステムの深化・推進 ②在宅医療・介護連携の推進 ③認知症施策の推進 ④生活支援・介護予防サービスの体制整備 ⑤地域ケア会議の推進 ⑥居住安定施策との連携 ⑦人材確保及び資質向上</p>	<p>①認知症施策 【初期集中支援チーム】(R6) (R7) (R8) (開催回数) 2 2 2 (検討数) 4 4 4 【いきいき出前教室】(R6) (R7) (R8) (開催箇所数) 6 6 6 【サポーター養成】(R6) (R7) (R8) (開催回数) 1 1 1 ②生活支援体制整備事業 【小地域サロン】(R6) (R7) (R8) (開催箇所数) 22 22 22 【支え愛マップ】(R6) (R7) (R8) (更新箇所数) 16 16 16 ③地域ケア会議 (R6) (R7) (R8) (開催回数) 2 2 2 (検討数) 4 4 4 (課題集約数) 2 2 2</p>	<p>【1】認知症施策 ・認知症初期集中支援チーム 検討委員会 (回数) 1回 チーム会議 (回数) 1回 ・いきいき出前教室 (回数) 1回 (参加者数) 7人 ・認知症サポーター養成 サポーター養成講座 (回数) 1回 (人数) 28人 ・安心見守り事前登録事業 (登録者数) 8人 【2】その他 ・小地域ふれあいサロン (実施箇所数) 21箇所 (更新箇所数) 9箇所 ・地域ケア会議 (回数) 2回 (検討数) 2件</p>	○	<p>【1】認知症施策 ・認知症初期集中支援チーム 検討事例は1事例に留まったが、専門医や、認知症疾患医療センターの職員等と交え、支援体制や、困難事例への対応方法についての理解や連携を深める事が出来た。今後も、現状の通り継続する。 ・いきいき出前教室 認知症の早期発見のため、簡易検診を組み合わせた出前教室を実施。令和6年度は、開催を受け入れたサロンが1箇所のみで留まったため、7年度は、サロンの世話人交流会でのPR等、周知広報に力を入れ、開催箇所の増加を目指したい。 ・認知症サポーター養成 多くの町民や、町内事業所の方に講座を受講していただいた他、受講された事業所にはステッカーを貼ってもらうなど、広報に努めた。若年層の受講者確保が課題であり、今後、企業や学校等、新たな受講者の掘り起こしに努める。 ・安心見守り事前登録事業 事業開始3年目となり、事業の周知や理解が進んだこともあり、令和6年度は、多くの新規登録があった。今後も引き続き周知を図るとともに、個別に登録を働きかける等、登録者の増加に努める。 【2】その他 ・小地域ふれあいサロン サロンの担い手(世話役)の高齢化により、サロンの維持継続が困難になるケースもある等、担い手の確保が課題。個別のサロンの運営支援の他、集落支援員の活用、町直営事業でのフォロー等を通じて、集いの場の確保に努めたい。 ・支え愛マップ 3年に一回の更新に向け、働き掛けを行っているが、集落により温度差があり、長期間更新出来ていない集落が存在する事が課題。簡易的な更新方法の提案等、集落の状況に合わせて、柔軟な姿勢で働きかけ努めたい。 ・地域ケア会議 事例検討だけでなく、県のアドバイザーを招き、地域課題の把握や、解決策の検討等に重点を置いて実施した。社会資源の確保が課題のため、今後も地域ケア会議を通じて、社会資源の確保を目指したい。</p>
②給付適正化	○高齢化が進み、介護保険サービスの需要が高まると同時に、サービスの利用者も増加している。今後さらに持続可能な介護保険事業を運営するためには、介護給付費の適正化に取り組み、給付費の上昇を抑える必要がある。	①要介護認定の適正化	認定調査内容の全数確認を行う。	包括職員全員で認定調査内容の全数確認を行った。	◎	○包括職員で認定調査全数目を通し、現状把握ができた。	
②給付適正化		②ケアプラン点検	ケアプラン点検を実施する。	1居宅介護支援事業所(メディコープ若桜居宅介護支援事業所)を対象に、2件のケアプラン点検を実施した	○	○鳥取県社協(鳥取県介護支援専門員連絡協議会)のケアプラン点検支援事業を活用して実施した。 ○ケアプラン点検の経験が少ない職員のスキルアップが課題であり、ケアプラン点検を毎年度実施し、経験を積み必要がある。	
②給付適正化		③縦覧点検・医療情報との突合	縦覧点検・医療情報との突合を実施する。	国保連合会に委託して点検及び突合を実施した。	○	○今後も引き続き、国保連合会に委託して点検及び突合を実施する。	